

仲間とともに発足しました 環境と福祉を育てる会



平成15年環境と福祉を考える会

行政批判ばかりでは、町の発展はあり得ません。三位一体の改革が進み税源移譲の間、地方への交付税、交付金は減少の一途です。

協働のまちづくりのために、税財源への負担を減らし自分達でできる事は自分達で、それがこれからの町づくりです。

「何が出来るか、何か始めようよ」その模索から、**環境と福祉を育てる会**を立ち上げました。

▼鎌北湖 ゴミ拾い



▲あいあい園夕涼み会参加協力



▲里芋を栽培し収穫祭を計画

本会は、井上議員の呼びかけで仲間が集まり発足した会であり、今では会と行政とのパイプ役でもある事務局をやって頂き、真のボランティア精神に感謝しております。

ボランティア活動は、お金では買えない価値があります。多忙な毎日の中でもきつとできる事がある筈ですよ。

私達の活動に参加してみませんか。ご連絡お待ちしております。

連絡先
夜のみ 29414581 岡部
昼 夜 29412404 井上

井上げんじだから できた 西大久保耕地再生

平成18年2月の下旬、県の職員（※1 農業改良普及員）が、私を訪れ、「西大久保耕地の荒れた田は、再生するのは困難か」と問われた。

私も多くの荒廃した田・畑を今まで再生してきたが、木まで生えている状態は、記憶にない。雑草の新芽が出る前の枯草粉砕、野焼きをすれば可能だと答え、県の職員も「それなら補助金も考えるのでは非、手がけて頂けないか」と、今回の西大久保耕地（毛呂山高校より西側の農業振興地域より除外された地区）の再生作業が町水田推進協議会より依頼の形となり始まりました。



言うは易く行なうは難し、予想以上の雑草と木の抜根作業も加わり、時期も遅れたため新芽が出て雑草の焼却作業も順調にはいかず、その上一番困難をきわめたのが、他の田にない湿田、農業機械が大型になればなる程その機械の重さでもぐってしまい、通常の3〜4倍の労力と精神力を必要とするもので、この地域の方々が重労働と水の汚れで耕作をあきらめる理由を体をもって感じました。

水田として約8反（2千4百坪）畑として約3反（9百坪）年度末の3月までに残り4〜5反の再生でこの事業も達成されますが、この地域に「大久保耕地対策会」が発足し、今後毛呂山高校より東側の整備が行われる事は、大きな成果と言えるもので西大久保地区全体の発展へつながる事と確信するものです。

西大久保耕地に携わる多くの方々、関係機関、町担当課職員、ボランティア団体等の協力に心よりの感謝を申し上げます。

